2026年9月13日（日）主日朝礼拝説教

『ただ神の国を』井上隆晶牧師
ペトロの手紙一1章13～19節、ルカによる福音書12章25～34節

**❶【寿命は決まっている】**
**「あなたがたのうちの誰が、思い悩んだからと言って、寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ他の事まで悩むのか。」**（12：25～26）ここでイエス様は寿命を延ばすことを「**ごく小さな事**」だと言われます。しかし寿命を延ばすことは人間にとって大きな関心事だと思います。最近、災害や事故で亡くなる人たちの記事を読むと、長生きする人は生まれた時から決まっており、早死にする人も生まれた時から決まっているのではないかと思うようになりました。旧約聖書の中にヒゼキヤという王様が出て来ます。彼は「**主の目にかなう正しいことをことごとく行う**」（列王記下18：3）とても良い王様でしたが、死の病にかかりました。善人だから長生きする訳ではないということです。預言者イザヤが訪ねて来て「**あなたは死ぬことになっていて、命はないのだから家族に遺言をしなさい**」といいました。ヒゼキヤが泣いて祈ると、神様は寿命を15年延ばしてくれたと書かれています。**寿命というのは神様が決めているのであって、私たちではどうにもならないと言うことなのです。**

**❷【人は自分で生きるのではなく、神によって生かされるものである】**
そしてイエス様は自然の鳥や花を例にとって話されます。「**野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。**」（12：27～30）

●この聖書の言葉を読むと、頭にある映像が浮かぶのです。昔、若かった時に「ブラザーサン・シスタームーン」という映画を見ました。中世のイタリアのアッシジのフランチェスコという修道士を描いた映画です。フランチェスコは布を商う大金持ちの商人の息子でした。十字軍に参加して、戦場の悲惨さを体験し、心が折れてうつ病になって村に戻ってきます。病気で寝ている時に、窓に小鳥がとまり、自由に空に羽ばたくのを見て、その鳥のように自由に生きたいと思うようになり、野原に出かけて行きました。野原を歩いていたら、廃墟になった教会を見つけます。その崩れた教会に入り、十字架の前で祈っていると「**私の家を建て直しなさい**」という声が聞こえました。そこで彼は、家に戻ると自分の財産も衣服もす

べてを親に返し、何も持たないで神に仕えて生きる修道士になりました。そして落ちているレンガを積んで、崩れた教会を建て直すと、そこに貧しい人たち、病気の人たち、行く所がない人たちが集まってきました。やがて修道士の仲間も増え、フランシスコ会修道会を設立するのです。

子供たちは何も持っていません。それでも必要な物は親が必ずくれると信じているので、毎日をのびのびと生きています。だから思い煩うことがないのです。**私たちが思い煩うのは問題があるからではありません。神と人を信じていないからです。自分の力で何とかしようとするからです。**私はこの子供のような心をもう一度欲しいと思いクリスチャンになりました。すべてを手離した自由、何も持っていないけれども心が満たされている喜びをもう一度、欲しいと思います。

### ❸【ただ神の国を求めなさい】

「**あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存知である。ただ神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。**」（12：31～32）ここでイエス様は「**ただ神の国を求めなさい**」と言われます。「**ただ**」という言葉をもって、**ルカ福音書は神様だけを求めなさいと言っているのです。**マタイ福音書では「**何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい**」（6：33）と書かれており、**優先順位を言っていて、神様をまず第一に求めなさいと言っているのです。「そうすれば、これらのものは加えて与えられる。**」とあります。神を第一に求め、神だけを求めれば、地上の必要は与えられるが、そうでなければ与えられませんというのです。これは約束を伴ったみ言葉です。私は今日まで神とキリストを第一として生きてきました。今までこの教会に来て 37 年間の間、地上の生活で困ったことは一度もありませんでした。必要なものはすべて添えて与えられました。

では神の国を求めるとはどういうことなのでしょうか？平和運動をしてこの地上に神の支配する国を造れという意味でしょうか。かつてビザンチン帝国（東ローマ帝国）というキリスト教を国教とする国が現れました。皇帝から民のほとんどがキリスト教徒でしたが、結局うまくいかず滅んでしまいました。今でもカルト宗教は地上に神の国を造ろうとして莫大な献金を集め、土地を買い求めています。しかしイエス様は「**神の国は見える形では来ない。ここにある、あそこにあると言えるものでもない。実に神の国はあなたがたの間にあるのだ。**」（ルカ 17：17）と言われ、総督ピラトに対して「**私の国は、この世には属していない**」（ヨハネ 18：36）とも言われました。国はギリシア語で「バシレイア」といって「支配、王」という意味もあります。神の国はこの世の物ではなく、目には見えませんが存在しており、キリストが支配する彼の王国であり、キリスト自身が神の国なのです。「**神の国は近づいた**」（マルコ 1：15）と言われたのは、御自身のことだったのです。**ですから神の国を求めるとは、キリストを求め、キリストにあなたの心を支**

**配してもらうことを求めなさいということです。**私たちは洗礼によってこの世に死に、キリストの王国に生まれたのです。主人はキリストなのですから、キリストに仕え、キリストが喜ぶことをし、キリストの道具となることが、神の国を求めることなのです。

●聖ニコラス修道院院長のサヴァ・マズコ師はプロテスタントの修道院であるテゼ共同体を訪れ、そこの修道者たちに「**修道者の召命：神の美しさにとどまる**」という題で講話をしました。それがすばらしいので皆さんに紹介しましょう。

「**美は神の名前の一つです。神は美の源です。神は美そのものです。後にわたしは、神が美しさの啓示をとおして多くの人々に現れたことを知りました。**…偉大な神学者であるセルジュ・ブルガコフ神父は、若いとき信仰を失い、熱心なマルクス主義者になりました。しかしヨーロッパを旅しながら、ドレスデンでラファエルの描いた「システィーナの聖母」に遭遇したとき、いつのまにか彼は祈り始め、祈りを止めることができませんでした。セルジュ・ブルガコフはこの出会いの中で献身への招きの声を聞き、後に彼は司祭になりました。…聖ベネディクトは、あるとき修道士のひとりにこう告げました。「さあ出かけて、人々に説教しよう」と。彼らは出発して、一言も声を発せず一日中通りを歩きました。その晩、弟子は聖ベネディクトに尋ねました、「説教はどうなったんですか」と。聖ベネディクトは答えました。「**わたしたち修道士が普通の人々の間を歩き周ったという事実、これがわたしたちの説教なのです**」と。…教会に行き始めたとき、ひとりの老婦人がわたしに表紙のない本をくれました。それは初代教会のエジプトの修道士たちの言葉が載った本でした。中でも聖アントニウスの生涯に関することばにわたしは魅了されました。毎週、若い弟子たちが彼のもとにやって来て、彼のことばから進むべき道のヒントをもらいます。ところが、その中に、ずっと黙って一言も質問しない弟子がいました。そこで聖アントニウスは彼に「なぜずっと黙っているのか」と尋ねました。彼はこう返答しました。「**わたしはあなたをじっと見ているだけで十分なのです**」と。…ブラザー・ロジェ（テゼ共同体の創始者）は、本当の意味での使徒宣教、すなわち和解の宣教を歩む共同体を設立しました。しかし、わたしにとってのテゼとは、何よりも美を啓示する場所そのものなのでした。ですから、テゼのブラザーの皆さんにいま聖アントニウスの弟子のことばを贈ります。「**ブラザーの皆さん、…わたしにとっての真の喜びは、みなさん顔に映っている美しさです**」。この美しさこそ、なぜ無数の青年たちが探求と祈りのためにテゼを訪れるのかという問いへの答えです。

モーセは神と語り合う間に、自分の顔が光を放っていることに気づきませんでした。それは人々が恐れるほどでした。**同じように、まず神を求める人、ただ神の国を求める人たちの顔には、知らない内にこの世にはない神の光と美しさが現れるのだと思います。永遠に残るもののために命を使い、朽ちることのない宝を獲得し、それと天に蓄えましょう。**